

1 「カルチャーパーク再編整備」構想について

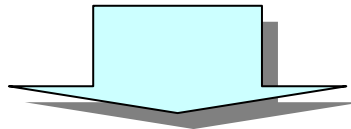
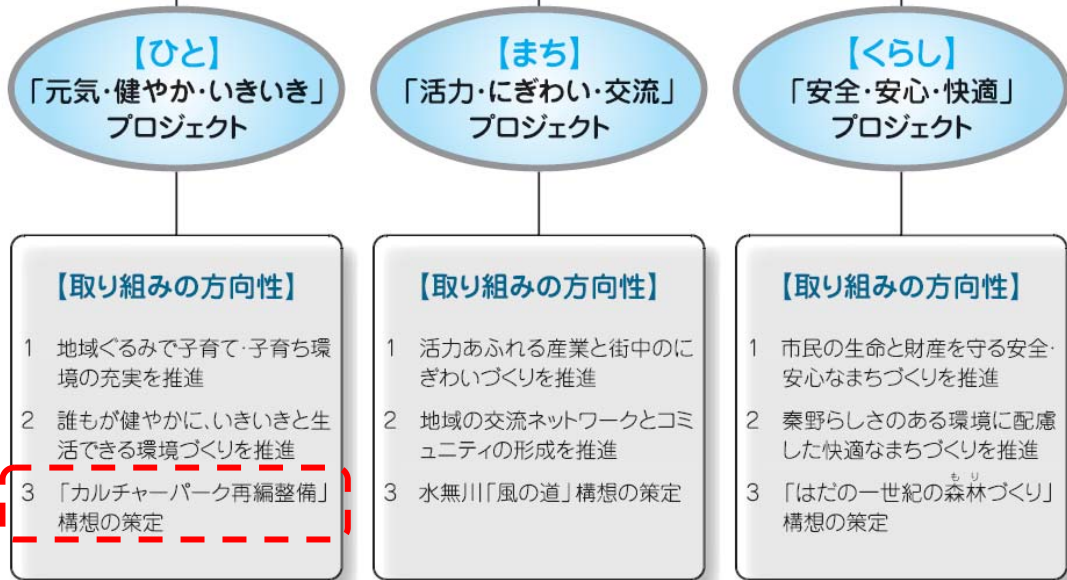
(1) 構想の目的

- 本構想は、カルチャーパーク（中央運動公園、文化会館、図書館、総合体育館、中央こども公園、みずなし川緑地が一体となった文化・スポーツ・レクリエーションの拠点施設：以下、本公園と称す）が、市民の生涯学習や健康づくりを促進するとともに、日常生活の中で憩い、リフレッシュする場として、その中心施設である中央運動公園を利用者の視点、動線等に配慮したみんなのための公園（バリアフリー新法対応）、防災機能を備えた公園など、総合的な公園としての再編整備を実現するために、その機能・性格・理念・テーマ及びイメージに基づき敷地の立地条件等を分析評価し、基本計画の方針及び導入施設の内容・規模を設定するとともに、景観、環境保全、管理運営等の概略の検討に基づいて、土地利用(空間構成)や動線を定めるなど公園の基本的な内容を示すことを目的としています。
- 都市計画、都市公園に関する法令、上位計画及び関連計画との整合を図りながら基本構想及び基本計画を策定します。

(2) 構想の位置付け

- 本構想は、「**秦野市総合計画第三期基本計画**」の**重点プロジェクト**に位置付けられています。
- この重点プロジェクトは施策大綱別計画及び地域別計画で示す施策・事業を横断して、相互に関連性を持たせながら、計画期間中において特に優先的・重点的に実施する取り組みとして示され、また将来を見据えたまちづくりの第一歩となる内容とされています。
- 重点プロジェクトは「ひと」がいつまでもこの「まち」で「くらし」続けたいと思える都市を築いていくことを目指し3つの柱【ひと】「元気・健やか・いきいき」プロジェクト、【まち】「活力・にぎわい・交流」プロジェクト、【くらし】「安心・安全・快適」プロジェクトから構成されています。
- 【ひと】「元気・健やか・いきいき」プロジェクトの取り組みの方向性における具体的取り組みとして構想を策定します。

重点プロジェクト



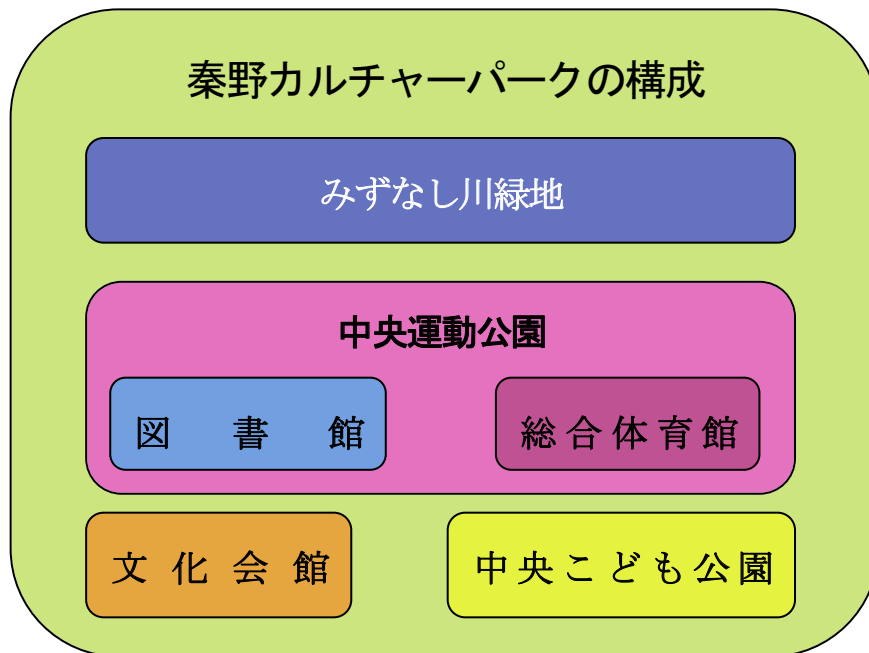
市民の生涯学習や健康づくりを促進するとともに、日常生活の中で憩い、リフレッシュする場として、カルチャーパーク（中央運動公園を中心として、文化会館、図書館、総合体育館、中央こども公園、みずなし川緑地が一体となった文化・スポーツ・レクリエーションの拠点施設）が、利用者の動線に配慮した総合的な公園となるよう、駐車場の再配置を含めた機能を再編整備する構想を策定します。

出典：秦野市総合計画第三期基本計画

(3) 経緯と現状

<構成>

- カルチャーパークは「中央運動公園」「総合体育館」「図書館」「中央こども公園」「文化会館」「みずなし川緑地」から構成されています。
- 本市の総合的レクリエーション拠点となっています。



<利用者数>

- カルチャーパークの施設毎の年間利用者数は、年度ごとに増減はあるものの増加しています。全ての施設利用者の累計は、年間95万人を超えています。

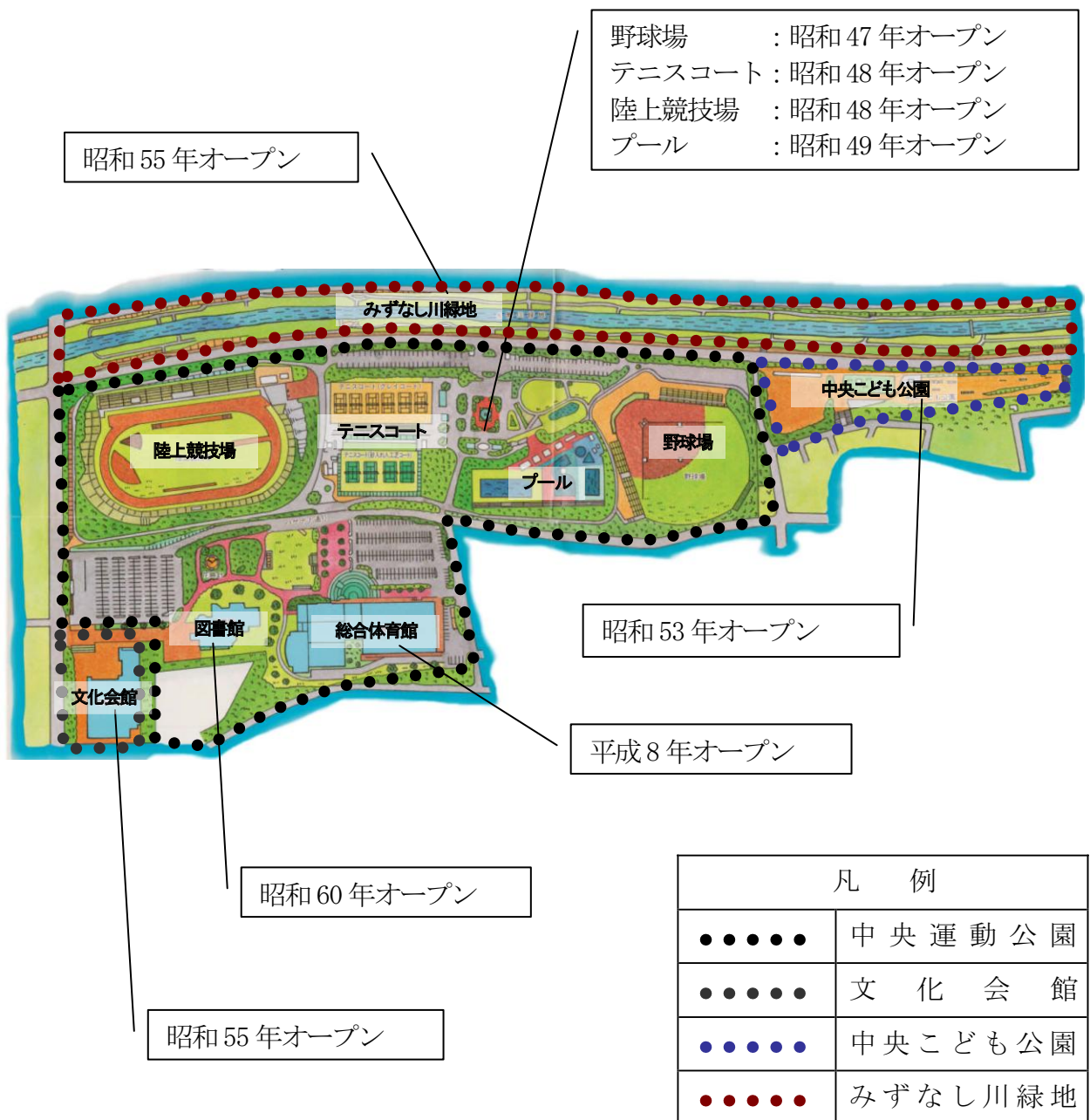
年度別各施設年間利用者数（単位：人）

年 度	野球場	庭球場	陸上競技場	プール	総合体育館	図書館	文化会館	合計
平成17年度	30,735	56,606	26,180	36,197	277,317	245,997	185,381	858,413
平成18年度	29,138	56,559	19,781	38,037	312,717	241,685	176,266	874,183
平成19年度	33,888	55,441	25,545	40,319	289,993	245,782	197,236	888,204
平成20年度	37,260	56,349	34,730	46,437	295,454	252,267	192,746	915,243
平成21年度	35,271	60,764	35,983	43,205	310,606	275,434	194,779	956,042

*注記：上記施設以外の区域は無料区域のため利用者数は不明

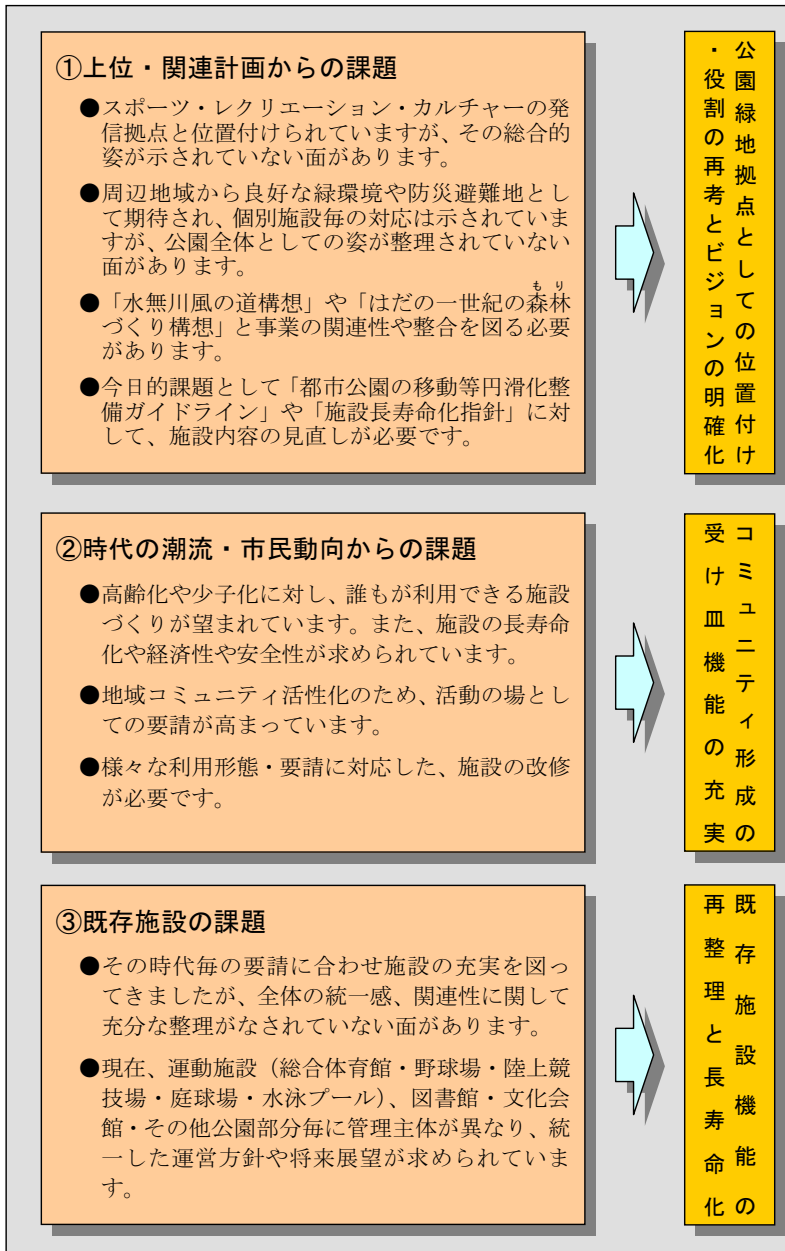
<経緯>

- カルチャーパークは、昭和47年の野球場完成を皮切りに逐次整備・改修が行われ今日に至っています。
- 昭和57年にカルチャーパーク構想を策定し、平成8年の総合体育館の完成により全容が整っています。

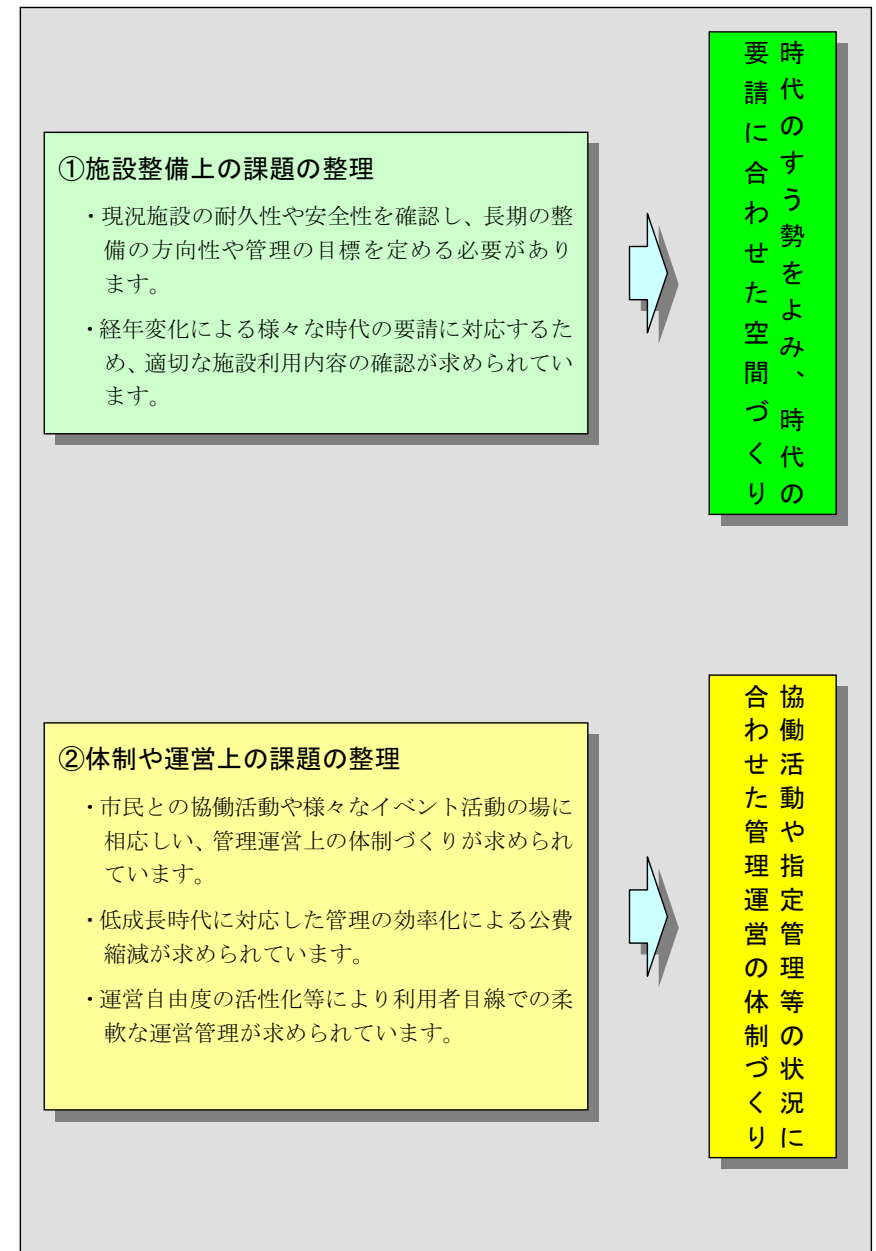


(4) 課題の整理と対策の方向性

〔課題の抽出〕



〔課題の整理と対策の方向性〕



(5) 基本構想の策定

秦野盆地の中央を流れる水無川は、舟で渡るほど大きな川で、氾濫を繰り返していたことから、治水などを目的に両側に堤防を築き流域周辺の整備を行ったことにより、昔の河原は公園などとして生まれ変わっています。

秦野市は、本公園の整備を通して時代を先取りする形で、運動施設や文化施設の充実に取り組んできました。

これからの取り組みは、こうした先達の先見性を手本とし、現有する資産の更なる有効活用の方策を見出すことにあります。

このため、「基本理念」と「基本コンセプト」、さらに「整備目標」を設定します。

《基本理念》

●秦野カルチャーパークの再生

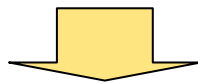
- ・総合的な公園として、また、本市における「緑の骨格」の中心拠点として相応しい機能の回復を図ります。

●スポーツ・レクリエーション・カルチャー機能の充実と連携

- ・市民施設として利便性や安全性を勘案し、誰でも安心して緑豊かな環境のなかで十分にスポーツ・レクリエーション・カルチャー利用ができる受け皿づくりを目指します。

●秦野市の都市公園のシンボルとして利活用の向上

- ・これからも市民に親しまれ、誰もが楽しめる公園として、また、「日本の都市公園100選」に選ばれた誇りある公園として、市民等との協働による管理・運営を含む利活用の向上を図ります。



- 「中央運動公園、文化会館、図書館、総合体育館、中央こども公園、みずなし川緑地」それぞれが各施設の役割を見据えた将来ビジョンを確立する必要があります。

- 市民利用に供するため、各施設が一体となって相乗効果が最大限発揮できるよう取り組みます。

《基本コンセプト》

《ひと・水・花 いきいき発信》

『秦野カルチャーパークは、市民誰もが「元気・健やか・いきいき」を実感できる場として、一年を通し花や潤いの体感できる環境のなかで、利用しやすい親しみある緑に囲まれたスポーツと文化の情報発信地をめざす』

ひと	: カルチャーパーク内で「市民誰もが安心して集い・憩う」様子をイメージ
水	: 水無川や名水百選である秦野盆地湧水群など、「名水の里」をイメージ
花	: 「花のあるまちづくり」を推進し、草花によりやすらぎを与える空間をイメージ
いきいき発信	: カルチャーパークから「市民活力【元気・健やか・いきいき】」が全市的に広がるイメージ

《整備目標(短期・長期計画の策定)》

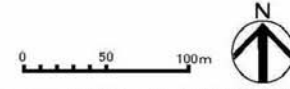
①短期計画(次期総合計画を予定し5年程度を目標)

- 「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」に即した改修整備を行います。
- 防災計画を勘案し、災害時における防災拠点、機能を備えた公園として再整備を行います。
- 利用者の動線に配慮した駐車場の再配置、公園一体的利用の観点からパサデナ通り(市道)の園路化を図るとともに、これに併せて周囲の道路と公園出入口などの再整備を行い、利便性を向上します。
- みずなし川緑地や中央こども公園等との連携及び機能配分を図ります。

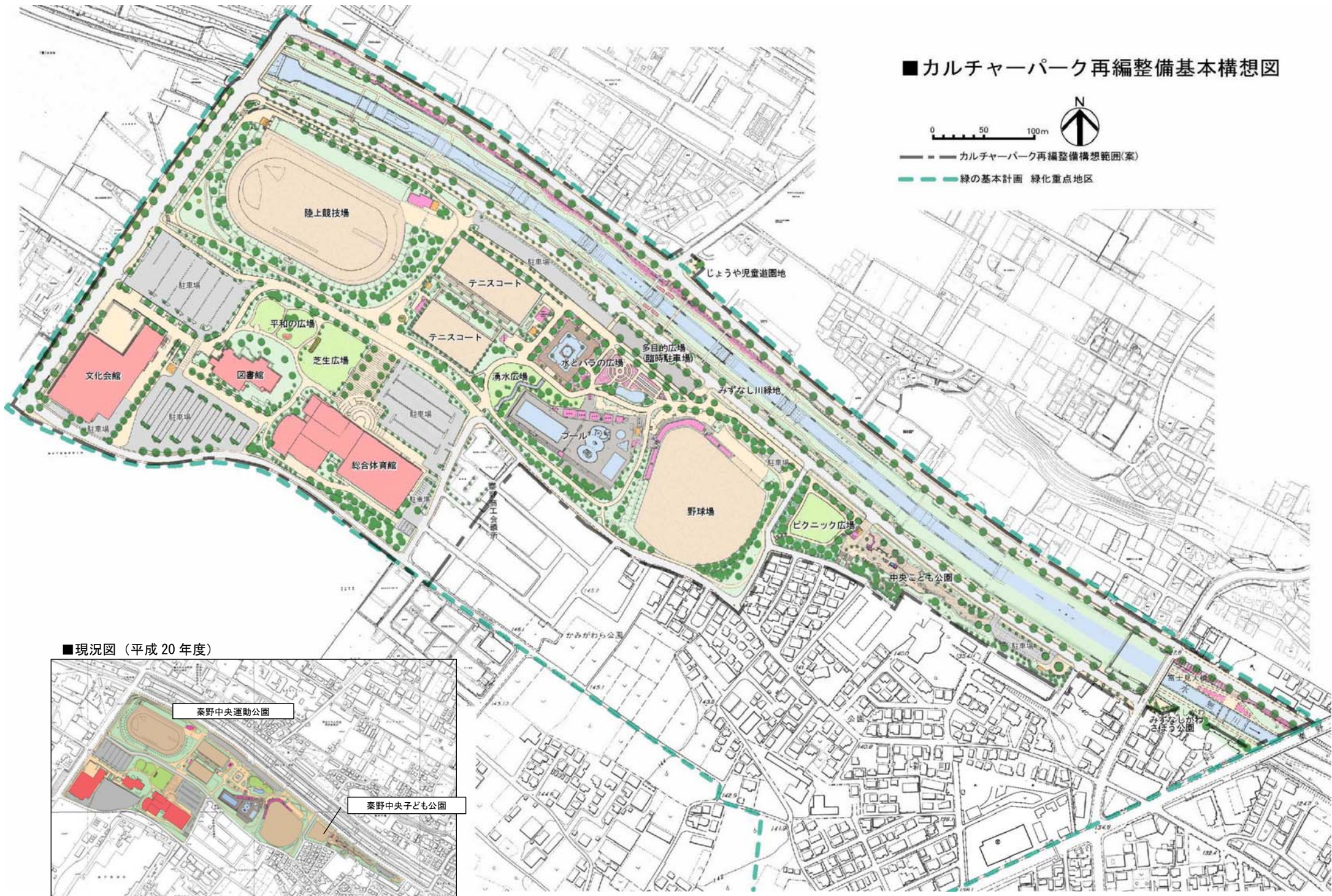
②長期計画

- 既存施設の総合的な改修については景観に配慮しながら行います。
- 本市の「緑の骨格」として、また市民の誇れるスポーツ・レクリエーション・カルチャーの総合的発信拠点として面的・線的広がりを高めるとともに、水無川「風の道」構想との連携を図ります。
- 周辺工業団地・住宅地・隣接街路を含めた緑地空間づくりを行い、緑の基本計画における緑化重点地区として、連続性や一体感のある緑化を推進します。
- 市民が誇りと愛着を持てる空間として、景観づくりやコミュニティ活動の発信地としての機能を高めます。

■カルチャーパーク再編整備基本構想図



- カルチャーパーク再編整備構想範囲(案)
- 緑の基本計画 緑化重点地区



■現況図 (平成 20 年度)

